

連載 (95)

いのち ひろば

毎月1回、中旬の水曜日に掲載

今月のひとこと

気温が低く空気の乾燥が厳しい季節です。インフルエンザウイルス、新型コロナウイルス、胃腸炎ウイルスなどの感染症が流行しやすいため、うがいと石鹸による手洗いを徹底しましょう！また、高齢の方は、寒暖差によるヒートショックに十分注意してください♡

「地域医療構想」って何ですか？

県西地区保険医療福祉推進会議 会長
一般社団法人 小田原医師会 会長
医療法人社団 渡邊内科クリニック 理事長

渡邊 清治



地域医療構想は、2014年6月に成立した「医療介護総合確保推進法」による制度化された医療体制を「高度急性期」「急性期」「回復期」「慢性期」の4つの機能に分け、医療圏ごとに整備目標に向けて協議し整備を進めようとするもので、2018年に地域医療構想調整会議がスタートしました。
小田原市、南足柄市、足柄下郡、足柄上郡の2市8町で構成される医療圏を神奈川県では「県西医療圏」と呼んでいますが、面積は県内で横浜市に次いで2番目に広く人口密度が非常に低い、横須川県内では「医師少数地域」に指定され、医療過疎地域として認識されています。

わたなべ・きよはる 1958(昭和33)年6月21日生まれ。県立小田原高校、北里大学医学部卒業。北里大学医学部非常勤講師。平塚共済病院消化器内科医長を経て2000年に渡邊内科クリニックを開業。2002年より小田原医師会理事・副会長、2017年より同会長、医学博士。

◆2040年を見据えた新たな取り組み目標

新たな地域医療構想の基本方針(「治す医療」と「治し支える医療」)として、国および県は、2040年を見据え、入院医療だけでなく外来・在宅・介護を含めた提供体制の構築を目指しています。

① 2040年に向け県西地区の最大の特徴は、生産年齢人口の急激な減少です。

② 医療人材の確保と「医師偏在」への対策
2040年に向けて最も深刻な課題は「人材不足」です。

○人口動態
2040年に向けて総人口は大幅に減少します。しかし、医療ニーズが高い75歳以上人口は現在の約1.5倍(横ばい)で推移する一方、医療の担い手となる生産年齢人口は現在の約0.76倍にまで減少すると予測されています。

○医師少数地域への指定
県西地区は、医師偏在指標において神奈川県内唯一の「医師少数地域」(全県下位33.3%)となっており、医師の非常勤割合が24.4%と県内で最も高く、雇用確保が不安定です。

○求められる対応
医療需要(高齢者数)が変わらない中で、支え手が大幅に減るため、従来の体制維持は困難です。したがって、「病床機能の集約化」および「効率化」の双方が不可欠な地域であると分析されています。

○在宅医療の進捗
この状況を受け、県は県西地区を「重点医師偏在対策支援区域」に指定しました。診療所の継承・開業支援などが先行して実施される予定ですが、地域の医師会からは「診療所だけでなく、二次救急を担う病院への支援が必要」との強い要望が出ています。

○コメディカルの不足
看護師についても、養成校(看護学校)の定員割れや、病院から訪問看護への移行が進まない等の課題があり、確保が年々難しくなっています。

●在宅医療・介護連携支援センターの中心に、多職種連携研修やICT活用での進捗が検討されています。
●小児在宅医療については、医療的ケアア兒の受入体制整備が進められています
●小児在宅医療については、医療的ケアア兒の受入体制整備が進められています
●小児在宅医療については、医療的ケアア兒の受入体制整備が進められています

◆総括と次期構想への展望

地域医療構想(2025プラン)の振り返りにあいて、県西地区は以下のような局面にあります。

○評価
地域医療構想調整会議を通して、医療機関同士の顔の見える関係や協議の文化は定着しました。また、必要病床数を目的とした強制的な削減を行わずとも、自主的な取組で機能分化が一定程度進みました。

○今後の課題
2040年を見据えると、生産年齢人口の急減により「医療の担い手」が不足することが現実視されています。そのため、単なる病床数の議論だけでなく、「限られた医療資源(人材)をどう集約・効率化するか」、「維持困難な病院・診療所をどう承継・再編するか」が、次期地域医療構想(令和8年度策定開始)の主要テーマとなります。

特に、県西地区では、二次救急を担う医師や病院機能の維持が危機的状況にあるとの意見が強く、診療所支援だけでなく病院への支援強化も強く求められています。

2040年に向けた 県西地区の方向性(現時点での考え方)

県西地区は、「限られた医療資源(特に人的資源)で、いかに現在の医療水準を維持するか」が最大のテーマとなります。これまでの「病床数」を中心とした議論から、今後は以下の点に重点が置かれることとなります。

- 1 効率化と集約化
分散している医療機能を再編し、少ない人数で効率的に医療を提供する。
- 2 人材の確保と定着
重点区域指定を活用し、医師および看護・介護人材の確保に総力を挙げる。
- 3 地域完結型システムの構築
病院完結型から、在宅・介護と連携した「地域で治し支える」体制への転換を、実効性のある形で進める。

次回(3月中旬)に「健康スポーツ医」についてを掲載(予定)です。

小田原市休日夜間急患診療所の体制について

小田原市休日夜間急患診療所

休日や夜間に急に発症した方の診療を目的とした二次救急の医療機関です。軽症の患者様を対象としていますので、症状によっては、重症患者様を受け持つ「二次救急病院」へ受診していただくことになります。応急処置を目的としていますので、受診後はかかりつけ医を受診するなど適切な医療を受けてください。

〒256-0816 神奈川県小田原市酒匂2-32-16
☎0465-47-0823 駐車場(第1~4)あり
<https://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/nighttime/>

診療科と受付時間	平日(夜間) 午後7時~同10時	日曜・祝日(昼間) 午前8時半~同11時半 午後1時~同3時半	土曜・日曜・祝日(夜間) 午後6時~同10時
内科	○	○	○
小児科	○	○	○
耳鼻咽喉科		○	
眼科		当番日のみ	
歯科		日曜・祝日(昼間) 午前9時~同11時半 午後1時~同3時半	

小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町の方対象

2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
	13:00~14:00 内科 循環器科	13:00~14:00 整形外科			14:20~15:20 小児科			13:00~14:00 内科 循環器科	13:00~14:00 整形外科			14:20~15:20 小児科	
8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14
	13:30~14:30 耳鼻科	13:00~14:00 内科				14:30~15:30 産婦人科		13:30~14:30 耳鼻科	13:00~14:00 内科			14:30~15:30 産婦人科	
15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21
		13:00~14:00 内科	14:30~15:30 小児科		13:30~14:30 内科	13:30~14:30 精神科			13:30~14:30 内科	13:30~14:30 内科 腎臓内科			
22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28
		13:30~14:30 内科		13:30~14:30 内科	13:15~14:15 皮膚科	13:30~14:30 内科 神経内科			13:30~14:30 精神科		13:30~14:30 内科	13:30~14:30 内科 皮膚科	
							29	30	31				
									13:00~14:00 内科				

小田原医師会地域医療連携室では、医師による電話相談を行っています。無料です。事前にお電話ください。

〈上記の問合せ先〉
小田原医師会地域医療連携室
☎0465-47-0833
月曜~土曜(日曜、祝・休日、12/29~1/3休み)
午前9時~正午/午後1時~午後5時

医療機関検索は
小田原医師会のサイト
から利用できます



<https://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/>

小田原医師会より住民の方々へ